

キャラクター感：今までのエッチによつて、今まで立ち入らせたことが無い自分のエリアに、主人公が入っても居心地が悪くなかったことから、自分の気持ち が 分からなくなつてゐる感じです。

プレイ内容：キス、フェラチオ

【位置：やや右 距離：近】

お兄さん、今日はその、来てくれてありがとうございます。
搾精予定日でも無い日に呼び出してしまつて……。

予定とか大丈夫でした？

……ん。

ならよかったです。

そうやってなんでも受け止めてくれるところ、結構頼りにしてゐんです。

……え？

伝わらないですか？

私としては態度に出してるつもりなんです……。

そもそも、お兄さんじゃなかったら、こんな誘いもしませんし……。
じゃあ、改めて。

【位置：中】

(一回呼吸を整えてから)

ん……。

ありがとうございます。

……伝わりましたか？

(いつもと違って受け止めてくれるみたいな含み)

ふう。

【位置：やや左】

それで、今日お誘ひしたのは、
外での人間の過ごし方も学習しようかと思つたんです。

今後サキュバスと人間とが共存するようになった際には、

より多くの標本が求められますから。

人間がこういった文化で生活しているのか、持ち合わせてる価値観や歴史感など……。

認識のずれがあると、同じ轍を踏むことが目に見えてますから。

私もこの国に来るまでは、人間のことをもっと、野蛮な生き物だと思っていましたけど……。

【自分に言い聞かすように、小ざく】

それも、勘違いのようでしたし……。

【少し感情を出してからかうような感じで】

ほら、お兄さん。

いつも私に攻められて、あんあん喘いじゃってるじゃないですか。

本当に野蛮な生き物であれば、

私を性奴隷のように犯すことだって出来たのに。

【位置：中】

【一回距離を置く感じで】

……そんなこと思いつかなかったみたいな顔してます。

ま、視線が強引になることは多かったですけど。

なので、私はそんな誤解を解くために、

私の意思でここに来たんです。

お父様からの命令ではなく、プライベートとして。

【一呼吸おく】

……。

それに、ここに来たのはもう一つ目的があって。

【位置：やや右】

【自分のことを話すのが恥ずかしい感じで、言い淀むように】

これは少し、個人的な話になってしまいますが……

私、その。

この前教えてもらった漫画を見て、変な気持ちでしたんです。

【あまり期待していないような感じで】

あの観覧車のシーン……。

わかりますか？

（感情には出せないけど、内心では嬉しそうに）

……はい。

そう。そこです。

胸がぎわついて、締め付けられるような……

でも、どこか温かくて懐かしいような気持ち……。

それで、実際にここに来たらそれが分かるんじゃないかと思って。

お兄さんはわかりますか？

これがなんなのか……。

【位置：中】

（一呼吸おいてから）

……それじゃ、一緒に見つけませんか？

おそろくこういうのは、お兄さんのほうが詳しいと思いますので。

……ん。お願いします。

あ。観覧車。

出発したようです。

なんだか、中にいると、本当に動いているのか、よくわからないですね。

外からは動いているのを確認できたのですが。

これだとまるで

静止した空間にいるみたいです。

それに、

お兄さんとの距離も、心なしか近くなったような気も……。

なぜでしょうね。

搾精中にはさんざん密着してきたというのに……。

【位置：やや右】

（窓の外を眺めながら）

多分……。

(独り言のように、声小さめで)

この窓の向こうに、確かに世界が存在しているからでしょうか……。動いている向こう側と静止しているこちら側。

世界から切り離されたのは私達二人だけ。

ま、確かに、不思議な感覚です。

あの、今日はもう少し近くにいてもいいですか？

……どうしてって。

その……。

その方が感覚が刺激されますので。

ヒントの1つになるのかと思ったんです。

【位置：右】

ん。

じゃ、お隣。失礼します。

【距離：密着】

(囁くような距離感)

お兄さん。

緊張しますか？

いつものように、心臓の脈が激しく聴こえます。

【距離：近】

……へえ。

女の子と外に居るのが不思議な感覚だから……？

人間って、異性を大切なパートナーとして迎える生き物だと、聞いたことがありますけど……
そういう経験がないんですか？

(なぜかちょっと嬉しそうに)

……そうですか。

でも、私達はそういった関係ではありませんから……。

サキユバスと人間。

たとえば共存が当たり前のようになったとしても……。

……ただ、今回付き合ってもらってるのは、私の方ですから。

いいですよ。

お兄さんの好きな女の子像になってあげます。
ま。可能な限りで……ですが。

感情の機微を知ること、目的の一つですから。

どうい子が好きなんですか？

見た目は変えられないので、例えば口調とか……。

【位置：やや右】

（自分に自信がないから困惑するように、でも若干嬉しそうな印象も）
えと。このままで……？

私、自分でも無愛想な話し方だと自負しているのですが……。

ふう。

ま。それでいいならいいんですが。

変わった方ですね。

もところ、感情に富んだ人とのほうが過ごしやすいかと思いますが……。

きっと、私と居ても……。

【位置：中 距離：密着】

（少し沈黙）

……ん。

お兄さん、少し……。

アドリブ：（口先が触れる程度の甘いキス 15秒）

はあ……。

（少しツンとした感じ）

居心地が悪かったので……。

そんな驚いたような顔して、お兄さんが悪いんですよ。

アドリブ：（少し舌をいれてのキス 20秒）

（静かに、噛みしめるように）

これが、キス……。

……ん。

なるほど、確かにあの漫画の通り、

身体の中が少し、暖かくなるような感覚がしますね。

もう一度、良いですか？

ん……。

あーん……

アドリブ…(すこし激しめのキス 20秒)

はあ……

(安心感への反動として、すこしだけからかう)

お兄さんの唇、乾燥のせいかな少しかきついています。

それに、少し固くて、唇が押しかえされるような気がします。

気持ちいいですか？

初めてのキス。

……ん。ならよかったです。

あーん……

アドリブ…(激しめのキス 息の音を交えながら 30秒)

はあ……

【距離：近】

(一回呼吸を整えて落ち着いてから、視線を落とす)

ふう……。

あの。

お兄さん。それ……。おちんぼ。

大きくなってますけど、キスで興奮したんですか？

……えと、しますか？

搾精。

【位置：右】

大丈夫ですよ。

見られる心配はしなくて。

今、この世界には、私達しかいないんですから。

……ん。それじゃ。

どうしてほしいですか？

いいですよ、なんでも。

お兄さんのしてほしいことで。

今日、付き合ってくださいましたし。

それに、準備もしていないことなので、

お兄さんがしたいことじゃないと……

精液も出にくいですね。

時間も、あまりないですから。

……ん。口、ですか？

先ほどお兄さんと口づけをしたことで……。

(「呼吸おいてから」)

……。

わかりました。

じゃ、下脱がせますね。

失礼します。

ん……。

流石に、あまり脱がせると、まずいでしょうから……。

このくらいで……。

ふう……。

出ました。

へえ。

お兄さんの、こう近くでみると、すごく猛々しいですね。

ピンと反り返ってて、段差のところでは血管も見えます。

……ん。おちんぼ。

ぴくぴくと震えました。

私の冷たい息が当たっているのでしょうか。

では、待ち切れない様子なので、これ。舐めてみます。

アドリブ…(亀頭をすこしだけ加え軽く舌で舐める 15秒)
はぁ……。

どうですか？

まずは少し啜えて、ここの段差を舌で刺激してみましたが……。痛くはないですか？

んちゅつ、んちゅつ。

……。よかったです。

あーん……

アドリブ：（亀頭を啜えて、離したり、15秒）

はぁ……

（一回距離を置く）

……。あの。

お兄さん、もしかして今日、オナニーしました？

おちんぽから、精液の味がしてきますが。

（感情抑えめだけど少し嫉妬を感じさせるような印象）

ふう。

どうして。

確かに予定にはありませんでしたが、

それでも、続けてたら搾精効率が悪くなってしまいますから、お控えください……。

アドリブ：（竿全体を舌で舐める20秒）

はぁ……

それとも、私の搾精では満足が出来ないからでしょうか……。

私が、感情の起伏も足りない女の子だから……。

そんなに強く否定したって、これが証拠じゃないですか。

アドリブ：（竿全体を舌で舐める20秒）

はぁ……

……。ん。

お出かけに備えて……

とかよくわからないです。

それじゃ、お兄さんは学校に行くときも……

仕事に行くときも……

オナニーしてから行くんですか？

アドリブ:(竿全体を舌で舐める 20秒)

はあ……

ふう。

今日のところはその……

私が知らないところでした無駄打ち分を、補給できるので良いですが……。

今後は、欲求が溜まったら呼んでください。

お兄さんが気持ちよくなってる姿、嫌いじゃないので。

アドリブ:(激しめに竿を舌で舐める 20秒)

はあ……はあ……。

ん。おちんぼ、綺麗になりました。

見てください、これ。

あー。

本当であれば私に出していただいたはずの精液。

お兄さんが抜け駆けした分。

しっかり反省してください。

あの、お兄さん。

これ、今更に大きくなったのですが……。

全く、ひどい人ですね。

アドリブ:(玉舐め、口に含んで離すような、ちゅっぱっ♡みたいな音を交えつつ 15秒)

おちんぼ、ぴくぴく震えてます。

どうですか？ 睾丸舐め。

情けない顔してないで、反省分の精液を準備してください。

お兄さんがいけないんですから……。

アドリブ:(玉舐め、優しく頬張りながら舐める15秒)

ここの中、ぐつぐつと鳴ってるのが伝わります。
外で遊ぶ子ども達を見下ろしながら、
女の子に精液準備をさせられる……。
ひどいお兄さんなら好きそうな構図ですもんね。

アドリブ:(玉舐め、激しめに15秒)

……ん。

そろそろ、おちんぽに戻りましょうか。
精液の気配も感じてきましたし。

今度はもう少し深く、してみます。
きっと、その方が気持ちいいですね。

はい。

アドリブ:(竿を半分くらいまで咥える、じゅばじゅば音を立てるゆっくりのディープ・スロート20秒)

お兄さん、すごい顔……。
そんなに気持ち良いんですか？私の口の中。
……ん。まあ悪い気はしませんが。

アドリブ:(竿を半分くらいまで咥える、じゅばじゅば音をゆっくりのディープ・スロート20秒)

えと、お兄さん、手……。
私の頭に……。

いえ、別に……。嫌というわけじゃ。
ただ、耳は敏感なので……
ん。離さなくても、良いです……。

アドリブ:(じゅばじゅば音を激しめのディープ・スロート20秒)

おちんぽの味、少し苦みが出てきました。

これが我慢汁でしょうか。ほのかに精液と同じ栄養素を感じます。

ということは、そろそろ射精が……。

アドリブ（じゅばじゅば音を激しめのディープ・スロート20秒）

……あの。

最後は私の頭をその手で、押さえつけてみませんか？

いいですよ。

お兄さんなら、少しは優しくしてくれること、分かっていますから。

それに、この観覧車も、そろそろ下に着きそうですから。

時間も無いことですし。

はい。そのまま……。

私の顔を、お兄さんのおちんぽに、押し付けてください。

んん……っ！

アドリブ（イラマチオ、じゅばじゅば音を根本まで20秒）

けふっ……けふっ……。

いえ、大丈夫です。

私達サキュバスの口は、たとえ隙間なく塞がれたとしても、呼吸は出来るようになっていきますから……。

気にしないでください。少し、むせただけですので……。

はい、また。お願いします。

んん……っ！

イラマチオ（根本まで、じゅばじゅば音を激しく20秒）

はあ……

お兄さん、息も激しくなってきました。

それに、私の頭を抑える手も、震えているようです。

全部飲みました。

喉に直接出されると、空気に触れないためか、いつもより濃かったです。それに、ネバネバしてて飲みづらかったです。栄養は感じましたが……。

はぁ……。はぁ……。はぁ……。

お兄さん、激しすぎです……

はぁ……。

【位置：やや右 距離：近】

……ん。

観覧車。

なんとか、下に付く前に射精できましたね。

（落ち着いて、単なる好奇心で）

そういえば、一つ聞き忘れていましたけど、オナニーのオカズってなんだったんですか？

今後の参考として。

私……？

えと、嘘じゃ、ないですよね？

（嫉妬してしまったことの罪悪感と、嬉しさに揺れる）

ふう。

だったらなおさら、呼んでもらえればしたのに……。

やっぱり……。

お兄さんって変な人ですね。

（少しだけ小声に）

でも私……。

あの女の子の気持ち、少し分かったような気がします。

お兄さんはどうですか？

心につつかえていたものが解消されたりとか。

……教えてほしい？

（少しだけにはかむように、自分だけにしておきたい様子）

……ん。嫌。です。

自分で見つけてください。

【位置：中】

（少しでも明るさを感じさせるような）

あの、お兄さん。

ついでに、下についたら、他にも遊んでいきませんか？